



令和 3 年度

新潟県立新発田病院附属看護専門学校

第 63 期生 卒業証書授与式を挙行いたしました

令和 4 年 3 月 7 日、学校講堂にて「令和 3 年度(第 63 期生)卒業証書授与式」を挙行いたしました。新型コロナウイルス感染防止の観点から、規模を縮小し感染防止を徹底した上で行いました。

本日まで、ご指導いただきました病院関係者をはじめ多くの皆様やご家族に支えられて、卒業生 36 名が本校を巣立ちました。

皆様より心のこもったご祝電や美しいお花をいただきましたことに、改めて厚く御礼申し上げます。

以下に新潟県病院事業管理者告辞を掲載します。



卒業おめでとうございます！

告 辞

県立新癸田病院附属看護専門学校の第六三回卒業証書授与式にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日、ここに、めでたく卒業証書を手にされた皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、限りない愛情を注いでこられましたご家族の皆様におかれましては、たいへんお喜びのことと存じます。心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、「豊かな人間性と看護に関する幅広い能力を持った看護職の実践者を養成する」という本校の教育理念の下に、看護師として求められる知識・技術の研鑽を積み、同じ道を志す友人と励まし合いながら最も大切な「看護の心」を学んだことと思います。

学びの過程では、ご家族や先輩方、教員や臨床指導者などの多くの方々を支えられ、幾多の困難を乗り越え、人間としても成長できたことと思います。この尊

い経験は、大きな誇りであり、本日、ここに卒業の日を迎えられた胸中には感慨深いものがあると思います。

二〇二〇年初頭に始まった新型コロナウイルスのパンデミックは、多くの人命を奪い社会経済に甚大な影響を与えています。社会経済の維持と感染対策の両立のために様々な対策が講じられていますが、終息にはまだ時間がかかると思われます。看護学校においては、これまでに以上に感染対策を強化しながら臨地実習に臨み、オンライン授業も導入されました。皆さんは様々な焦りや不安を抱えながら学業に励んでこられたことと思います。今まで当然に出来ていたことが出来なくなる体験は、改めて人々の健康を暮らしの大切さを認識する機会となり、日常に対する感謝にも気づかせてくれました。どのような状況でも看護に携わる者の基本姿勢は「患者の最も身近にいる」職業として患者や家族に寄り添う看護です。看護は、様々な価値観を持った患者と向き合っていく仕事です。実践の場

においては、時には戸惑い、悩むことがあるでしょう。しかし、そうした患者にしっかりと向き合っていていくことが、「患者に寄り添う」ことにつながっていきます。皆さんは、本校において学業を修めながら、看護に携わる者としての知識や豊かな人間性を育んでこられました。本校で培った経験を糧に、これからも初心を忘れず、誠実に患者と向き合い、信頼される看護師として成長していかれますよう心より期待しております。

最後になりますが、今日までご指導にあたられた先生方、関係機関・関係施設の方々に敬意を表しますとともに、卒業生の皆さんのご健康とご多幸、そして輝かしい未来を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和四年三月七日

新潟県病院事業管理者

藤山 育郎

